

小特集① 金正日総書記の国葬とその報道

はじめに

北朝鮮の最高指導者である金正日総書記（以下、金総書記と表記）が2011年12月17日に69歳で急死した。北朝鮮の公式発表（19日）では、現地指導に向かう列車の中で、度重なる精神的、肉体的な過労により、急性心筋梗塞が発生し、心原性ショックが併せて起きたとされている。北朝鮮メディアは「16日に現地指導に出発するわが将軍を見た」との鉄道省幹部の話を紹介した（東京12/25）。

死亡した日時や場所について疑問を呈する報道も数多くなされたが、そもそも氷点下10度の極寒の中、持病があるのに列車で移動するだろうか、病をおして仕事を続けたという金総書記のイメージを作るため、北朝鮮が事実とは異なる発表をしたのではないかという見解などもあり、いずれも推測に基づいたものである。

死去については、韓国情報機関が死去日の17日から19日の発表までの情報が把握できておらず、米中央情報局（CIA）も把握していた形跡はなく、情報機関の不備が指摘される日本政府もつかめなかったのが事実のようである（朝日12/21）。

以下では、死去に続く金総書記の告別式、追悼中央大会の報道を、それらをめぐる解釈などを含め、紹介する。また韓国での報道と比較し、違いがあるかどうかにも触れる。

1. 金総書記の国葬

金総書記の国葬は、三男の金正恩氏が正式な後継者であることを示す機会となった。北朝鮮の朝鮮中央通信は21日未明、金正恩氏が20日に金総書記の遺体が安置されている平壤・錦繡山（クムサン）記念宮殿で、弔問に訪れた外交団に対応したと報じた。これが金総書記の死去発表後初めての単独の対外活動となった。弔問客が深い哀悼と慰労の意を伝えるのに対し、金正恩氏は深い謝意を表した（毎日12/21）。またニューヨークの北朝鮮国連代表部は20日、代表部内に記帳所を設置した。中国の李保東国連大使ら、北朝鮮と友好関係にある国々の代表が相次いで弔問に訪れた（朝日12/22）。

葬儀の様子は世界中に流された。錦繡山記念宮殿広場に入場する霊柩車の左右を金正恩氏の側近と見られる労働党と人民軍の7人が寄り添い、新指導部の出発を印象付けた。28日、午後2時から「実況中継」として映像を放映し始めたが、これが生中継だったか、編集を経た録画だったかの議論が起こった。午後2時前、平壤に記者を置く中国国営新華社やロシアのタス通信は午前10時過ぎから「葬儀開始」と速報している。このズレが録画説を呼んだ。また、平壤市内の沿道で泣き叫ぶ市民の姿は、全く同じに見える映像が何度か差し込まれていた。1994年の金日成主席（以下、金主席と表記）の葬儀の際は、市民の参列者数を200万人と報道したが、北朝鮮官製メディアは今回その数を紹介していない。朝鮮中央通信が報じたのは、地方の各地でも祭壇が設けられ、行列が絶え間なく続いているということであった（日経12/29）。葬儀の様子は、インターネットの動画配信サイト「ニコニコ動画」でほぼリアルタイムで配信された。国営の朝鮮中央テレビの衛星放送に同時通訳をあてていて、午後には17万人が視聴した（産経12/29）。

金総書記の永訣式（告別式）の一連の儀礼では、金主席の葬儀の形式が多くの特異な点で踏襲された。霊柩車も前回同様、米フォードの高級リムジンが使われ、車列が通ったコースもほぼ同じだった（読売12/29）。違いを探すとすると、金主席の告別式では金総書記は霊柩車を見送るだけだったが、今回は降雪の中、金正恩氏は霊柩車に寄り添うように歩いたことである。氷点下の寒さの中、手袋もせず片手を車に添える姿から、父への忠誠を尽くして「遺訓政治」を行う姿勢を示し、3代目となる権力世襲の正統性を強調する思惑が見て取れるという解釈がある（毎日12/29）。

葬儀に際し、長男次男の姿は映像のどこにもなかった。このことについてコリア・レポート編集長の辺真一氏は「遺族としては葬儀の場にはいなくてはいけませんが、北朝鮮の体制は長男と次男の存在を国民に知らせるわけにはいかないだろう」と分析している（産経12/29）。韓国の聯合ニュースでは、長男の正男氏や次男の正哲氏は葬儀名簿自体にもその名がなかったと伝えている。

前朝鮮日報論説委員のト・ジュンホ氏は、この点を次のように分析している。親孝行を何よりも大事な徳目とする北朝鮮では、通常は父親の葬儀に長男が喪主になるのが「道理」だが、長男の姿はなかった。北朝鮮は1つの大きな家庭であり、その構成員同士が円満で、お互いを大事にする、何よりも親孝行が大事である。金総書記が金主席の死亡後、通常礼法通りだと満2年で終わる「3年葬」を満3年間の追慕期間としたのもその理由であったという。と

ころが儒教的社会主義国家と言われるほど、儒教を大事にする北朝鮮の「道理」と「礼儀」が、実は権力者の恣意的な装飾物にすぎないということを、今回のことが証明したという (Newsfinder12/28 [http://www.newsfinder.co.kr/news/article.html?no=9880])。

韓国、中国の葬儀報道の雰囲気と言及した記事もある。韓国では当日の午後2時前からテレビが告別式の実況映像を流したが、統一省や外交通商省の公式コメントはなく、市民の関心も低かった。脱北者団体の「自由北韓運動連合」などは、南北境界に近い韓国北部・坡州の臨津閣から、北朝鮮の3代世襲を批判するビラ約20万枚を大型風船で飛ばした (毎日12/29)。

中国は外務省の洪磊副報道局長が28日の定例会見で、「さまざまな方法で深い哀悼の意を表明している」と述べ、政府を代表して劉洪才・駐北朝鮮大使が告別式に出席した。国営中央テレビが告別式の様子を放映。北京の北朝鮮大使館には半旗が捧げられ、車も大使館の周囲を走ることが禁止されるなど厳しい警備が敷かれた (毎日12/29)。中国遼寧省丹東でも追悼行事が開かれた。大勢の北朝鮮出身者らが花束を手を訪れ、「將軍様は私の心の中に生き続けます」などと涙ながらに悼んだ。100人以上が出席した模様だ (朝日12/29)。吉林省延吉では、21日弔問所が設けられ、喪服や黒いチマ・チョゴリを着た数百人が白や黄色の花を持って訪れた。弔問所は北朝鮮料理のレストランが併設されているホテルの1階。花を供えた後、約20秒間の黙祷。追悼集会が終わるまで喪に服すると報じられた (朝日12/22)。

2. 中央追悼大会

12月29日午前に平壤の金日成広場で中央追悼大会が開かれた。大会は午前11時から約50分間開催。最高人民会議常任委員は追悼の辞で「金正恩同志は党と軍と人民の最高指導者だ」と公式に宣言し、新体制が事実上動き出した形になった (赤旗12/30)。

葬儀委員数は232人で1994年に死去した金主席の死去時の委員数273人の84.9%にあたる。中央追悼大会を区切りに追悼期間を終え、「先軍政治」を進めることを鮮明にした。28日の労働新聞 (朝鮮労働党機関紙) には、人工衛星の打ち上げと核保有国となったことを「遺産」と位置づけ、正恩氏はその遺産をさらに豊かにしていくと強調している (東京12/30)。

11時50分ごろに閉会が宣言され、弔砲が放たれた。閉会后、正午からは各地で国民が3分間の黙祷をし、列車や船舶などがいっせいに汽笛を鳴らした。中朝国境にある北朝鮮・新義州でも追悼の汽笛が鳴り響いた。午前11時に列車や船舶のものとみられる汽笛やサイレンが一斉に鳴り、住民数人が平壤の方向にお辞儀した (読売12/30)。北朝鮮の朝鮮中央通信は29日、総書記の死去が発表された19日から29日までの「哀悼期間」中に、延べ2億6千万人が弔意を表したと報じた (読売12/31)。北朝鮮の人口は2,400万人とされているが、報道の通りならば1人が10回以上弔意を示した計算になる。ある弔問所では、参拝者たちが肖像画まで約20m進むのに4時間以上かかったとしている。北朝鮮メディアは1994年の金主席死去の際には、死去翌日7月9日から追悼大会の20日まで延べ約2億1,200万人が弔意を示したとしている (産経12/31)。

中央追悼大会では金正恩氏は演説せず、肉声は聞かれなかった。1994年の金主席死去時に無言を通した金総書記の例を踏襲したとみられる (読売12/30)。

韓国紙・東亜日報は30日、北朝鮮で金総書記の命日とされる12月17日に生まれた子について、住民が同日を誕生日として役所に届けることが事実上できなくなる見通しだと報じた。12月17日は2012年から全住民が、「悲しむべき日」となり、誕生日を祝うことがタブーになるからだという。すでに金主席の命日に当たる7月8日が「太陽が落ちた最大の悲しみの日」とされ、住民は銅像を参拝して追慕しなければならず、飲酒も笑顔も不謹慎とされているという。そのため、この日に出産した親は誕生日を翌日として届け出ている。12月17日も同様になるとみられている（産経 12/31）。

日本でも在日本朝鮮人総連合会（朝鮮総連）主催の追悼大会が開かれた。29日、東京都北区の東京朝鮮文化会館で追悼式が行われ、約1万人が参列し、1分間の黙祷をした。許宗萬責任副議長が弔辞を述べ、参列者たちは金総書記の肖像画に赤いカーネーションをささげた（東京 12/30）。同追悼大会は朝鮮総連側が選んだ一部のマスコミを除いて、報道を閉め出して行われた（産経 12/30）。警視庁によると参列者は総連関係者や朝鮮学校の生徒ら約5千人に上ったが、94年の金主席の追悼式と比べると4分の1の規模だったという（読売 12/30）。

3. 遺体の永久保存

ロシアの国営テレビが報じたところでは、ロシアの専門家らが平壤入りし、遺体の永久保存処理の作業を開始した。レーニンや金主席らの処理も手がけ、世界的に知られる遺体保存の研究所のグループである（朝日 12/30）。[→ロシア参照] ロシアや韓国のメディアによると、遺体から内臓を取り出したうえで防腐剤に漬け、液体を浸透させてから乾燥させていく方法をとる。保存作業は半年から1年。防腐処理だけで約100万ドル（約7,700万円）、その後の維持に毎年80万ドル（約6,200万円）かかるという。社会主義国家では「建国の父」の遺体が永久保存されるケースが多いが、父子2代にかけて永久保存されることは前例がない。

金総書記が保存の処理をされた場合、政治指導者としては、旧ソ連のレーニン、ブルガリアのデミトロフ、モンゴルのチョイバルサン、旧ソ連のスターリン、旧チェコスロバキアのゴットワルト、ベトナムのホー・チ・ミン、アンゴラのネット、ガイアナのバーナム、中国の毛沢東、北朝鮮の金日成に続き11人目になる（毎日 12/29）。韓国紙、朝鮮日報には、遺体の永久保存を行った政治指導者のなかに、モンゴルのチョイバルサンの名がなく、したがって10人目になると報道している。

金総書記の告別式会場となった錦繡山（クムスサン）記念宮殿は、金主席の遺体が安置されている施設である。金主席の銅像がある万寿台（マンステ）や生家がある万景台（アンキョンテ）に加え、北朝鮮国内で「最高聖地」と位置づけられる場所でもある。平壤市の中心街から北東に約8km離れた錦繡山のふもとに位置し、金主席の65歳の誕生日である1977年4月15日に合わせて完成したものである。

韓国メディアによると総敷地面積は350万㎡で東京ドーム約75万個分の広さである。建築面積は3万500㎡と推定。当初は「錦繡山議事堂」だったが、金主席死去後、永久保存した遺体を安置する場所として、金総書記が大改装を指示されている。北朝鮮国民らの参拝用のエスカレーターや動く歩道など整備し、一周忌に合わせて公開された。韓国では改装に8億ドル（760億円）が投じられたと報じられている。

北朝鮮の公式資料によると、宮殿前には金主席と金総書記の誕生日（それぞれ4月15日、2月16日）を象徴する長さ415m、幅216mの広場があり、宮殿内には金主席の立像や、「泣き部屋」（「金主席の死に際し国民が血の涙を流した」ことから金総書記が命名）と呼ばれる空間がある。ほか2千人収容のホールや演劇公演用の舞台などもある。金主席の遺体が安置されているのは3階とみられ、ガラスケースに保存され、別室には金主席の遺品や愛用車のベンツ、専用列車などが展示されている。一般国民も入ることができる。金総書記の遺体も金主席と同様、ガラスケースに入れられた様子で公開された。遺体の周りには「金正日花（ペゴニア科の赤い花）」で埋め尽くされ、正面には数々の勲章が並んでいる。遺体が宮殿内のどこに安置されているかは、確認されていない（毎日12/29）。

4. 国葬についての東アジアの反応

金総書記の死去とそれへの北朝鮮の対応（特に国葬）に対して、各国はどう反応したかをまとめてみたい。韓国政府は20日、「北朝鮮住民」に向けた弔意を表明した。李明博大統領が招集した外交安保関係閣僚会議が開かれ、焦点は弔意、弔問の扱いだった。政府決定は以下の3点であった。①北朝鮮住民に対して弔意を表す。②政府として弔問団は送らない。③金大中元大統領と鄭夢憲現代グループ会長の遺族については、両氏の葬儀の際、北朝鮮が弔問団を送ったため、答礼として遺族の弔問を認める。北朝鮮への弔意については否定的な意見が多数を占めたが、朝鮮半島の緊張拡大を避けたい日米などの動きを見て方向転換し、北朝鮮住民への「慰労の意」を表明することにした（朝日12/21）。

韓国与党内では「弔意」に消極的な声が強かった。19日に与党・ハンナラ党元代表で大統領選有力候補の朴槿恵氏は不測の事態への備えを強調、「弔意」は示さなかった。一方、最大野党である民主党や民主統合党は「弔意」を発表。金大中元大統領とともに訪朝し、金総書記に会った李姫鎬夫人は「深い哀悼の意」を表明し、朝鮮中央通信は配信記事で談話を紹介した（朝日12/21）。なお、李姫鎬夫人らは26日、板門店を通して弔問のため訪朝し、記念宮殿で金正恩氏と面談した。27日午前には最高人民会議常任委員長と万寿台議事堂で会談し、帰国した（赤旗12/28）。

また、韓国内の宗教団体は、南北の軍事境界線近くの高台3ヶ所に「韓国の発展を見せる」として巨大なクリスマスツリーを立て、23日にイルミネーション点灯式を予定していたが、統一相は中止を要請する方針を明らかにした（朝日12/21）。

韓国紙の社説には、国葬や追悼に対し批判的に述べた記事もある。12月29日付の東亜日報の社説「金日成・金正日、地上最大の‘宮殿墓’、世界に恥ずかしい」では、墓について次のように述べている。

錦繡山宮殿は、北朝鮮の多くの住民が飢えに苦しんでいるという状況のなか建てられた。金日成が1977年、10億ドルで建てた官邸が彼の死後の地球上でもっとも大きくて豪華な墓へ変わった。官邸を墓に変えるため2億ドルが投入された。北朝鮮住民の恨みは、脱北詩人の張ジソンの「宮殿」で描写されている。「あの宮殿は／生ける人のためのものではない／数兆ウォン稼ぐため数億を投資したわけでもない／死せる一人を埋めるため／三百万人が餓死していくなか／華麗に建ち／ぐっとそびえたち／誰もが／沈痛な面持ちで眺める／三百万のお墓なり」（私訳）。北朝鮮に自由と民主の春が訪れる日、金日成父子の宮殿墓には憤り

に満ちる群集が押し寄せてくるだろう。

中国の丹東市は北朝鮮の哀悼期間中（29日まで）、市内での花火などを制限し、夜間には国境の鴨緑江にかかる中朝友誼橋の電飾も消すなど、隣国に最大限の気遣いをみせている（毎日 12/28）。

日本政府は21日、金総書記死去を受け、正式な弔意表明はしないことを決めた。藤村修官房長官が記者会見で「弔意を示す予定はない」と明言した。拉致被害者や家族の感情に配慮したとみられる。朝鮮総連や在外公館を通じての記帳も行わない方針である（東京 12/22）。また北朝鮮による拉致被害者に思いを寄せる約400人が、28日東京都文京区の区民センターに集まり、「独裁者を追悼する日であってはならない！」と怒りの声を上げた（産経 12/29）。

国連総会本会議では、22日北朝鮮の金総書記の死去を悼む黙祷がささげられた。北朝鮮の国連代表部の要請に基づくものだが、日本や韓国、欧米諸国は核実験などを強行した「独裁者」に哀悼を示すことを拒否した。半数近くの加盟国が欠席し、議場には空席が目立った。ナセル総会議長は記者会見で、「総会の前例や外交儀礼の慣行に従って決めた」と述べた。北朝鮮は安保理にも黙祷を要請したが、12月の議長国のロシアなどの判断で退けられた（産経 12/25）。28日には北朝鮮金総書記の国葬に合わせ、弔意を示すため、国連本部など世界各地の国連事務所で、国連旗を半旗にして掲揚した。北朝鮮からの要請に応じたもので、国連報道官は「国家指導者死去の際の慣例になった」としている（読売 12/30）。

5. 金総書記の神格化

指導者の死には神格化という宗教的要素も少し入り込む。朝鮮中央通信が22日、「17日午前、白頭山の山頂池の氷が割れ大きな音が響いた」と怪現象を伝えた。中国との国境にある白頭山は、金総書記の誕生地とされる。また、弔問が始まった20日には北朝鮮東部・咸興で、金総書記の銅像の上を白い鶴が旋回し、近くの木に止まって頭を下げ、平壤方向に飛び去ったと報じた。いずれも奇異な現象を金総書記の「威光」と関連付ける狙いがある（東京 12/25）。

国営朝鮮中央放送は22日朝、19日には白頭山一帯の「正日峰」上空に「見たことのない赤い夕焼け」が発生したと伝えた。22日の労働新聞（電子版）は、21日午前8時半ごろ、平安南道の弔儀式場に一つがいのヤマバトが現れ、式場に入ろうとくちばしで窓ガラスを突き続けたと記述した（毎日 12/24）。

朝鮮中央通信は30日、金総書記と金正恩氏が描かれた切手が発行されたと報じた。革命の聖地とされる白頭山の絵の上に、笑顔で並ぶ父子の写真が掲載され、「偉大な領導者金正日同志は永遠にわれわれとともにいらっしゃる」と書かれている（産経 12/31）。金正恩氏の偶像化の兆しという解釈も出ている。

国葬に関する報道には、指導者の交代がもたらす政治的な変化にもっとも注目が集まっているが、ここでは、指導者の死去に伴う儀礼的側面と、さらにそれについて批評を加えた記事に焦点をしばった。また金総書記の神格化のプロセスがどう展開するか、今後の動向に注意したい。

【文責：李和珍】